

# 道写協

## 北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内  
011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)  
<http://www.doshakyo.org/>

第145号

# 第68回写真道展審査報告

第67回から1年を経過しても、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない状況に変わりありませんが、感染防止に十分配慮したうえで、第68回写真道展審査会を開催いたしました。

## 応募の状況

第1部〜第3部の応募総数は、3、161点で前回に比べ、40%程度減少し、応募者は、361名で、41名減少しています。応募数の減少は、今回から各部門ごとの応募数を5点以内に制限したことが要因のひとつであり、応募者数の減少は、1年以上に及ぶコロナ禍の影響もあつたものと思われまます。

## ■田嶋審査委員長ほか13名で審査

審査会は、2月27日と28日、北海道新聞社において行われましたが、例年使用してきた広い会議室が、新型コロナウイルス感染症防止の影響で使用できず、審査の簡素化、効率化が求められました。

審査は、田嶋英夫氏を審査委員長に、写真家の水本一義氏を招待審査委員に迎え、総勢14名で行いました。



審査1日目  
審査員が3グループに分かれて、粗選りを行いました。粗選りでは、各グループごとに、4〜5人の審査員が順次、作品に目を

通し、各部門とも応募総数の50%程度が選別されました。引き続き各部門一人1点の規定に基づき、選別作品の中から、同一作者に属する複数の作品を1作品に絞り込みました。



最後に、第4部(学生)の入賞、入選作品の選考を行い、最優秀賞に大麻高校の姉崎康祐さんの「温もり」が選ばれました。第4部では、昨年に続き、札幌創成高校の健闘が光りました。

## ・審査2日目

水本一義招待審査員をお迎えしました。



水本 一義招待審査委員  
札幌デザイナー学院学務部長  
元札幌ビジュアルアーツ校長  
日本写真芸術学会会員、日本写真協会会員

第1部〜第3部の入賞、入選作品の選考を行い、第1部(自由)文部大臣賞に、佐野

ミヨさん(恵庭支部)、第2部(観光・産業)国土交通大臣賞に、掛村一憲さん(札幌支部)、第3部(ネイチャーフォト)環境大臣賞に齋藤ますみさん(室蘭支部)の作品が選ばれました。

中でも、第3部の大臣賞選考の過程では、これまで類を見ない齋藤さんの作風に、撮影技法から合意論議に至る盛んな審議の中、作者が3,000枚撮った中の1枚という労作であつたことが分かり、その追求心に、審査員一同賞賛の心地よい感動を覚えました。

引き続き、第68回写真道展大賞の選考では、何れも力作の3大臣賞作品を前に、田嶋審査委員長が、迷わず齋藤ますみさんの「森、ひとしずく。」を選び、審査員全員の拍手の中で決定しました。

審査の結果、入賞入選作品270点に対し、入賞入選者は、183名(会員88名)でした。なお、そのうち、複数入賞入選された方は、70名(会員47名)でした。

審査会の最後に、会友作品53点の中から、会友奨励賞に、久留嶋誠悦さん(苫小牧支部)の「家路」が選ばれ、会友準奨励賞には、奈良美弥子さん(札幌支部)と伊藤藤勝利さん(旭川支部)の作品が選ばれました。

これまでに経験のない審査会となりましたが、滞りなく終えることができました。新型コロナウイルスの感染拡大が収束しない中、審査に当たられました審査員の皆様並びに関係者の皆様に深く感謝いたします。

第68回写真道展審査係 山下 智記

# 入賞者の声

## 驚き！ 喜び！ さらなる意欲、そして笑顔

写真道展大賞  
第3部一席「森、ひとこへく。」



室蘭支部  
齋藤ますみ

「大賞を受賞して」  
この度は写真道展大賞という名誉ある賞を賜り、誠にありがとうございます。

受賞の報告を受けた時、室蘭市内は非常に退屈な曇り空でしたが、私の心には、一瞬にして鮮やかな虹がかかりました。歴史ある写真道展でまさか自分が?!と、未だに信じられない思いであります。そして、今回初めて「うれし涙は塩辛くない」ということを実感いたしました。日頃、お世話になっている室蘭支部の方々と、関わって下さっているすべての皆様に心より御礼申し上げます。

受賞作品は、3月の雪解けが進む午後、自宅近くで撮ったものです。コロナ禍で外出自粛が続く中、自宅裏の森で野鳥の撮影をしておりました。太陽が西に傾き始めたその時、ふと視線を下にやるとキラキラと光るものが目に入りました。それが、今回受賞した作品にある雫になります。太陽の光を反射したそれは本当に美しく、夢中でシャッターを切り、気づくと何千枚も撮っていました。太陽が沈む寸前まで立ち位置を変えて撮り続けたので、体がすっかり芯から冷えきったのを覚えています。三脚使わずのマクロレンズでしたので、シャッ

ターを押すたびに息を殺して大切な一瞬を狙い続けました。苦勞して撮った一枚でしたので、今回の受賞は本当に嬉しいです。私が尊敬する方が、こんなことを言っていました「朝、自宅からゴミステーションへ向かうまでのほんの数メートルの間に小さな発見があり、芸術の芽が顔を出している」と。これからも身近なところでも素敵な発見ができるよう心の目を養っていきます。

この度は本当にありがとうございます。



第一部一席「あの夏の日」



恵庭支部  
佐野 ミヨ

一部で「一席」という文字を目の当たりにして、目を疑いました。せめて、一枚だけでも入選してさえないくれたらと思いつつ、胃の痛くなるほどの長い長い待つ日々でした。撮影に出かける

時、殆ど同行してくれていた夫が、ここ2年程体調が優れず、昨年本州にいる孫に逢いに小旅行をした時の写真が入賞作品です。暑い夏日に、突然にわか床屋さんが出現！思わずカメラを手に、孫に記念写真を撮ってあげようと、玄關先に出て、素の光景を写した中の一枚です。



その夫も在宅ケアに切り替え、夫婦二人だけの静かな刻を過ごしている所に、夢のような大きな賞の朗報！

撮影時、道内を長距離運転、車中泊の準備、三脚担ぎ等、サポートしてくれた夫へ最高のお礼返しができたと、選んで頂けた事に心から感謝です。

写真を通じて巡り逢えた、沢山の素晴らしい方々全員に「有難うございました！」と声を大にして叫びたい衝動に駆られています。自分がいいます。

今後もし指導よろしくお願いいたします。

第二部一席「匠」



札幌支部  
掛村 一憲

「驚きと喜びと」  
3月4日に写真道展から通知が来ま

した。

これまで道写真展には6回目の参加、過去5回は入選で私には入賞は無縁だと思っていました。今回封筒を開けてみたら2部観光産業の部一席の文字を見て「まさか?」「うっそ!」と信じがたく「え〜!」と驚き最後に「嬉しい!!」と大喜び、こんなこともあるんだな〜と思いました。63歳で会社生活を二段落し、趣味の写真をはじめました。66歳の時、誘われて現在の写真サークルに入り、道写協に入会、支部写真展に参加を勧められることも写真について様々なことを教わりました。道写協の例会等では数々の素晴らしい作品を見せていただき貴重な勉強の場となりました。初めは何もわからずなんでも撮っていました(現在も大して変わらないけど)今は主に自分の好きな働く人、職人等をテーマとして撮っています。

今後このテーマを追いかけるとともに好きなシャッター音を聞きながら仲間と楽しいカメラ生活を続けていきたいと思えます。



第二部2席「竜安寺の石庭？」  
第三部3席「雅の舞」



札幌支部  
見野 則幸

「出会いと粘りと回数」

例会で中野会長から「出会いと粘りと回数」を教わり、諸先生や先輩たちからのアドバイスで「いい写真を撮ること」の多くを学びました。2席の写真は、自宅マンション横で、ロードヒーティングの「パイプ敷設工事」に出会い、模様が「竜安寺の石庭」だと夢中で撮りました。

3席の「雅の舞」は、例会で、澤田会友から「サギ」の写真の特集見せていただき感動し、その撮影地に13回足を運び、粘りに粘って、サギの華麗な舞に出会い、夢中で撮りました。今回の成果は、協会、例会の先生や先輩との出会い、素直に聞く耳、向上心、諦めない粘りの堅実な実践の賜ものかと、全てに感謝です。

第一部3席「ごきげん」  
第三部2席「晩秋の煌めき」



札幌支部  
浦崎 毅子

初めての二席の写真は、小雨の中、森林公園に出かけた時、たくさん光る水滴をつけたモミジの枝に、たった一枚の赤い葉を見つけ「晩秋だ！」と写した一枚です。

3席の写真は、秋晴れの日、写真の仲間

と樹芸センターに出かけた時、とてもご機嫌な笑顔の坊やを抱っこしているご夫婦に出会い、撮らせてもらったものです。どちらも偶然の出会いがあったから撮ることができた写真で、ありがたうの気持ちです。本格的に写真を撮り始めてから、5年ほどになりますが、サークルの先生、仲間との出会いもとても貴重で、やはり、ありがたうの気持ちです。道写協札幌支部での毎月の例会も、写真を撮るが大事な時間です。これからの感謝の心を忘れず、楽しく写真を撮り続けます。

第一部2席「仕事帰り」



室蘭支部  
太田 秀樹

受賞し、喜びと感激で胸が熱くなりました。日頃から指導いただいている諸先輩や仲間の皆様に心から感謝申し上げます。写真道展には毎年チャレンジしておりますが、ハードルが高く、何度もうけようと思いましたが、入賞を目指しながら続けてきました。今回に繋がったものと思えます。受賞作品は、日高方面で出会った老夫婦を数十コマ撮った中の一枚です。二人仲良くリヤカーを押し歩いている姿に見とれ感動しながらシャッターを切りました。写真を始めて二十数年、今まで一番大きな賞を頂き、これを励みにこれからも被写体との出会いを大切に、楽しみながら作品づくりに努力してまいります。

第三部2席「山の目覚め」



札幌支部  
梅澤 勇二

昨年5月に旭岳の麓へ友達と水芭蕉を撮りに出かけましたが、未だ雪が深く見つかりませんでした。しかし、エゾノリュウキンカが満開で、その黄色と雪の白とのコントラストが良く、撮影していると急に太陽が日暈になって、貴重な写真を撮ることができました。これを機に精進していきます。

一部2席「初氷」  
三部3席「大慈大悲」



岩見沢支部  
鈴木 佳夫

「喜びを力にかえて」

写真を始めて15年になります。その間、機会を捉えては様々なコンテストに挑戦してきました。その目的は、写真生活の楽しみ方の質的な向上と自らの写真力を高めることです。その意味で写真道展は、客観的に自身の作品を観ることの大切さと、大きな励みを得ることができました。

第68回写真道展3部門で入賞と入選という評価を頂き驚愕していますが、このことを糧に、自己の写真生活の充実と仲間づくりに邁進していきたいと思えます

第二部2席「遠い記憶」



苫小牧支部  
増井 典子

昨年引き続き、入賞のお知らせを頂き、嬉しく思っております。これもよき師、仲間、恵まれたおかげと感謝しております。昨年は、コロナ禍で、ほとんど撮影に行けず、今回の作品は過去のものでしたが、思い入りのある写真が日の目を見ることができ、喜んでおります。

私が写真を撮り始めたのは、趣味のガーデニングからでした。庭のお花をコンデジで撮って、ブログを始めたのですが、まもなく、花の写真の奥深さを知り、一眼レフとマクロレンズの存在を知りました。あれから12年になります。

今は、写真が生活の一部となり、写真を撮る前は何とも思わなかったモノや光景に感動できるようになりました。そんな風になれた自分が嬉しいのです。これからも、コロナに負けることなく写真ライフを楽しみたいと思えます。

第一部2席「感染防止」



小樽支部  
北 宏保

この度は、第一部2席との連絡を頂き、大変うれしく、誇りに思っております。昨年2席を受賞し、2年連続に驚いております。受賞作は、昨年来からの新型コロナの影響

で、全てが自粛する中で写真に対する熱意も低下する日々が続きましたが、「コロナに負けるな」の意気込みと、写友の励ましを受けながら、コロナ禍の街中で出会った浴衣姿の女性たちの了解を得て撮影した一枚です。コロナ禍だからこそ、写真道展本来の表現で審査員の心を打つ斬新な一枚を追及する活気ある姿勢で、日々精進していきたいと思ひます。

第一部3席「番屋の主」



帯広支部  
大崎祐美子

【感謝】

この度は、3席入賞を頂き、驚きと嬉しさでいっぱい気持ちです。ありがとうございます。私はこれまで道写協には所属せず、一般で応募してましたが、一昨年帯広支部に入会しました。毎月の例会では、会員の方々の様々な視点での写真発表と審査会員の先生方のアドバイスなど大変勉強になります。それに仲間ができたことが嬉しく励みになっています。今後は、ステップアップを目標に頑張りたいと思っております。

第一部3席「彼から」  
第二部3席「夕映えの導き」



札幌支部  
安田 敏彦

昨年に続き入賞入選と、しかも今年はず部門で入賞を頂き、とても嬉しく思っております。

す。趣味として本格的に写真を始めて早9年になり、この間を振り返ってみると、賞には縁がない私に初入賞が喜びと欲に代わつていきました。最初の出会いが、写真サークルと道写協との入会のきっかけで、写真の世界に導いて頂いたことに感謝申し上げます。

第二部3席「私の仕事」



浦河支部  
福嶋 美好

人生の大半を過ごしてきた、懐かしい日高線・夏の多忙な海岸の作業場で、皆に迷惑がかかろうと、一人遊びの女の子。これが私の仕事なの！その愛しいお子様の写真で賞を頂けてとてもうれしく思っています。私自身の励みにもなりまして、これからも大いに写真を楽しみたいとワクワクしています。

第一部3席「飛んでけ！」



帯広支部  
井関 一

この度の入賞、誠に光栄と感謝申し上げます。然別湖は東大雪に位置する標高約810mの天然湖で、私はこの「日本の秘境100選」にも選ばれたことのある湖に魅せられて、長い間撮り続けている一人です。冬には然別湖コタン祭が開催され、イグルーと氷上露天風呂のあった氷雪湖面

も、気温の上昇に伴い解体され、雪に覆われていた貸しボートが姿を現わしている光景に、やがて来る春の兆しを感じてシャッターを切りました。今後も撮り続けていきたいと思っております。

第一部3席「笑顔のお刈娘」



芦別支部  
河原 典子

この時に選ばれましたのはとても嬉しく思いました。地元での祭事、天皇陛下に献上する神事の稲刈りをすませた、お刈娘さんが緊張からほぐれた満面の笑顔です。地元役に立つよう足元を見つめ、写す心を大切に、仲間の方々に支えてもらいながら撮ることが出来るまで写真を楽しんでいたいと思ひます。

【初応募で3部門入選】



札幌支部  
片岡 真弓

楽しいだけで撮っていたのに、嬉しい知らせにとってもびつくりしました。今思うと、いろいろな人と知り合い、教えて頂いたおかげで気づくことも多く、続けることの楽しさを知りました。感謝しております。これからは、教えを忘れずに、一步一步進んでいきたいとの気持ちを新たにしております。

会友奨励賞・準奨励賞

会友奨励賞



苫小牧支部  
久留嶋誠悦

この度は、思いもよらぬ会友奨励賞を受賞し、感激でいっぱいです。受賞作品は、私の好きな撮影場所の一つでもある松前町の夕暮れで、年に数回通っている場所でもあります。この日は天気も良く夕日も綺麗になるだろうと思ひ、待つていたところに散歩している男性と出会ひ、会話しながら撮影したものです。以前は、目の前の海に漁火が見られましたが、最近はいかの不漁でみられないことが多く淋しい限りです。これからも自分の好きな撮影地には飽きることなく通ひ、新しい発見に感動しながら撮影していきたいと思ひます。



会友準奨励賞



旭川支部  
旭川 謙二

伊藤 勝利

会友準奨励賞の決定文章が届き、喜びと感動の一瞬でした。画題の「景色は最高」は、地上314m(78階)バンコクで最も高い展望台のガラス張りのフロアーです。観光客が多く、思うようなアングルで撮れない中、人波が途絶え、一人の女の子が、ガラス越しに四つん這いになり下界の景色に見入っていて、一瞬のシャッターチャンスをつかみました。準奨励賞を頂き、心に残る一枚になりました。これを励みに頑張つて行きたいと思えます。ありがとうございます。

会友準奨励賞



札幌支部  
札幌 美弥子

奈良美弥子

「自分らしく」  
会友準奨励賞の知らせを頂き、第一声「えー？ マジ？ (苦笑)」でした。賞を頂いた作品は、写真仲間と山形までフェリーで出かけた時の写真です。

もっぱら撮影は風景やネイチャーで、スナップを撮る機会が少ない私は、この機会に「この旅は全て……で撮ろう！」と決めていました。

夕暮れの山居倉庫で、北海道では考えられないほどの土砂降りに遭い、車のハッチ

バックの中で三脚を立てて撮影していた目の前に、自転車女性の女性が現れ、雨宿りをしているワンシーンです。水たまりに映る白熱電球のオレンジ色の光、使い込んだ自転車……まるで映画を観ているような、忘れられない時間でした。審査員・会友作品展での出展は、自分が大きく伸ばしたいと思つた写真を提出してきました。これからも自分らしく好きな写真を撮り続けていきたいと思えます。スナップの勉強もまだまだこれからです。今後とも道写協の仲間たちとともに精進していきたいと思えます。

喜びの初入選

今回、初入選者は10名でしたが、そのうち次の9名の方々が会員でした。これを機にこれからのご活躍を期待します。(敬称略)

- 池永 康子 (旭川) 加野 勝弘 (浦河)
- 片平 信之 (釧路) 片岡 真弓 (札幌)
- 山田 信重 (滝川) 中川 公王 (滝川)
- 鳴海 明 (室蘭) 尾形 和雄 (室蘭)
- 石橋 一彰 (根室)

札幌支部写真展の開催

道写協や札幌支部のPRとともに新会員募集にもつながる支部写真展は、コロナ禍で危ぶまれましたが、皆さんの熱意と協力により開催。6日間の開催中トラブル無く、無事終了(約500人来場)いたしました



2021道写協札幌支部写真展

3月18~23日 道新ぎゃらりー

事終了することができました。また、記念事業として記念誌「釧路支部60年のあゆみ」の制作も行い、今回の展示作品を掲載するなど、釧路支部の意気込みを示すとともに、会員各人が、次に向けての決意を新たにしました。

会員一人2点出品、展示作品56点、439人來場。

釧路支部創立60周年記念写真展

釧路支部では、支部創立60周年記念事業として、実行委員会を設立準備を進め、テーマを「道東の四季」に決定し、会員各人が思いを寄せた四季の作品作りに励んだ結果、2020年12月2日から5日間、釧路市生涯学習センター市民展示ホールでの開催にこぎつけました。

展示期間中は、コロナ感染防止のため、会員一致団結してこれに臨み、無



市民展示ホール  
Exhibition Room Events Information

北海道写真協会釧路支部  
**創立六十周年記念写真展**

入場時間  
無料  
十二月二日(水)六日(日)  
午前10時~午後六時 最終日午後五時

主催 北海道写真協会釧路支部  
後援 北海道・釧路市教育委員会  
釧路市文化団体連絡協議会

支部例会成績

室蘭 支部長 佐々木昇

- ▽1月例会(25日) 中西勉審査会員審査
- ①太田秀樹②成田正利・太田秀樹③大坪恵子・鳴海明・齋藤ますみ(入選) 栃元幸一・鳴海明・蒲野進・吉井良平・田村謙次2点・今井富夫3点・成田正利
- ▽3月例会(26日) 審査互選
- ①齋藤ますみ②太田秀樹・鳴海明③吉井良平・成田正利・田村謙次(入選) 尾形和雄2点・蒲野進3点・鳥海政史・今井富夫・鳴海明・成田正利・田村謙次

小樽 支部長 高橋省三

- ▽2月例会(10日) 小泉和子審査会員選考
- ①北宏保
- ②根本辰男
- ③小林好江
- ④北宏保
- ⑤根本辰男



2月例会1位「運河夜景」  
カラー 北 宏保

岩見沢 支部長 鈴木佳夫

- ▽1月例会(13日) 審査互選
- ①岩井郁美②木村克己③鈴木佳夫④松本久子
- ▽2月例会(10日) 審査互選
- ①伊藤博章・中神由美子③木村克己
- ▽3月例会(10日) 審査互選
- ①鈴木佳夫②松本久子③中神由美子・岩井郁美・上口建作・鈴木佳夫

恵庭 支部長 西澤 實

- ▽12月例会(14日) 審査互選
- ①加藤憲秋②吉村剛③神能俊行・西澤實⑤中村忠司⑥田中康夫⑦菅原恵子・坂田一紀

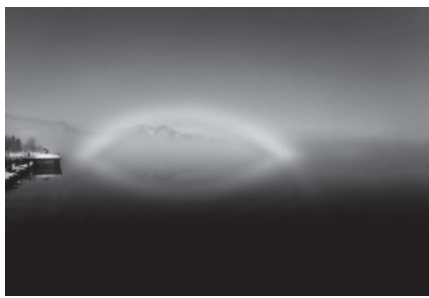
- ▽1月例会(12日) 審査互選
- ①吉村登美子②加藤憲秋・田中康夫④菅原恵子⑤佐野ミヨ⑥西澤實⑦神能俊行・吉村剛
- ▽2月例会(8日) 選考互選
- ①吉村剛・吉村登美子③佐野ミヨ④西澤實・加藤憲秋⑥菅原恵子・田中康夫・坂田一紀
- ▽3月例会(8日) 審査互選
- ①吉村剛②坂田一紀③菅原恵子・佐野ミヨ⑤加藤憲秋・田中康夫・服部健治・神能俊行

栗山 支部長 黒田幸則

- ▽1月例会(15日) 審査互選
- ①②齋藤優子③④黒田幸則③中島武士(入選) 齋藤優子・中島武士2点・黒田幸則3点

札幌 支部長 難波 江

- ▽12月例会(18日) 岸本日出雄先生選考
- ①見野則幸②浦崎敦子③林繁造④米澤三千代⑤梅澤勇二⑥脇田健司⑦片岡真弓⑧府中紀一⑨掛村一憲⑩安田敏彦
- ▽1月例会(15日) 香取征子審査会員選考
- ①林繁造②浦崎敦子③掛村一憲④渡辺勝⑤梅澤勇二⑥今明美⑦安田敏彦⑧見野則幸⑨見野則幸⑩西尾克彦
- ▽3月例会(19日) 野勢英樹道新写真部長選考



3月例会2位「霧の悪戯」  
カラー 板垣 功

旭川 支部長 白鳥敏昭

- ▽1月例会(14日) 田本實審査会員選考
- (特選) ①浦島寛②池永靖子③添田裕子④佐藤繁雅⑤佐藤祐子(入選) 小山満3点・池永靖子2点・浦島寛ほか

2月例会(10日) 馬場和美審査会員選考

- (特選) ①浦島寛②吉田清治郎③添田裕子④⑤小山満(入選) 池永靖子3点・森田正義3点・白田忠雄・小山満ほか



2月例会1位「吹雪に歩く」  
カラー 浦島 寛

釧路 支部長 石川 隆

- ▽3月例会(11日) 田本實審査会員選考
- (特選) ①森田正義②白田忠雄③佐藤繁雅④武田千枝子⑤上平秀美(入選) 白田忠雄・浦島寛・山本義則2点・宮野和子2点ほか



1月例会1位「氷の妖精」  
カラー 中嶋淳一

- ▽3月例会(11日) 奥野時夫審査会員選考
- ①蝦名昇②水野敏幸③片平信之④佐々木せつ子⑤長尾芳文⑥鈴木啓司郎

滝川 支部長 渡辺靖郎

- ▽令和2年 年度賞
- ①山田信重②萩原洋子③中川公王

お知らせ

甲  
2月28日、審査会員(室蘭支部)の浪岡和雄さんが逝去されました。(63歳)  
1年ほど前から体調を崩され療養中でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

合掌

第68回写真道展巡回展会場

- 期間 令和3年5月11日(火)～16日(日)  
場所 札幌市民ギャラリー  
入選 入賞 会友 審査会員の作品展示
- ・巡回展
- 岩見沢市民会館 5/28～30
  - 室蘭市民美術館 6/3～6
  - 苫小牧市民文化交流センター 6/10～13
  - 羽幌町立中央公民館 6/16～20
  - 名寄市民文化センター 6/24～29
  - 釧路市生涯学習センター 7/14～18
  - 別海町中央公民館 7/29～8/1
  - 三笠市民会館 8/7～9
  - 市立小樽美術館 8/13～15
  - 旭川デザインギャラリー 8/20～23
  - 根室市総合文化会館 9/10～13
  - 北網走北見文化センター 9/22～26
  - 函館市芸術ホールギャラリー 11/25～28
  - 網走市立美術館 12/25～1/23

編集後記

コロナ禍が続く中、写真道展審査会を無事終え、会報を発行することができ、ほっとしています。このような時だからこそ多くの喜びの声をお届けしたく、入賞者全員に原稿を依頼しました。原稿を読ませて頂き、皆さんの喜びや、感動、苦労や出会いなどから希望や勇気を頂き、改めて大きな写真の力を実感しております。ありがとうございます。

(田本、香取)